ほほえみ

(NO413)
特別養護老人ホーム
筑波キングス・ガーデン
0297(24)5139

ぬくもり

杉山法子様の紹介

長男　杉山利之様

母は、土浦市で2男4女、6人兄弟の3女として生まれました。昭和20年、終戦から3ヶ月が経った頃でした。

幼少期は、時期が時期だけに豊かな生活とは言えませんでしたが、家族8人で「一生懸命に生きた」楽しい時期だったと母に聞いています。また、母は幼い頃から小柄だったものの運動神経が良く体育の授業がとても好きだったと言っていました。私も幼稚園児～小学校低学年の頃に、仕事で多忙だった父に代わり、学生時代バスケットボールで慣らした母に、キャッチボールやドッジボールの相手をよくしてもらいました。最後はいつも、母の実力の前に、惨敗した私が、大泣きして終わりになるのを今でも鮮明に覚えています。

母は嫁いで水海道に来てから、父と二人三脚で屋根・瓦工事店を営み、50を過ぎて父の仕事も落ち着いてくると、同居する専業農家である祖父を手伝い、米作り・野菜作りをしながら家事・育児に追われる日々を過ごしていました。

母は父との毎日の晩酌、子供の成長、孫の笑顔を楽しみにしている元気な「肝っ玉母ちゃん」として近所でも有名でした。そんな母が、2011年の冬、脳梗塞に倒れ、言葉と右半身の自由を失いました。医師からの話では、寝たきりかとも思われたのですが、長く辛いリハビリを経て現在の状況まで何とか回復しました。また、キングスガーデンでの健康的な生活や職員の皆様の手厚い介護のおかげで体調も良くなり、言葉は出づらいものの、人好き・世話好きで元気な母が少し戻ってきてくれたように感じます。

私は今後も、施設を利用している皆様や職員の方々と日々を楽しく前向きに生活することで母が少しでも「幸せな日常」を送ってくれればと考えています。何かとご迷惑をおかけすると思います「杉山法子」を宜しくお願い致します。

主は私の羊飼い。
私は、乏しいことがありません。
詩篇二三編一節

ホームページ

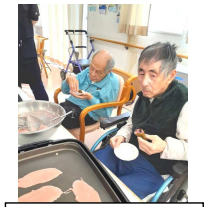
さくら餅作り

憩の汀副主任ヘルパー　越路直弘

三月十一日の午後に憩いの汀ユニットで、桜餅作りをご利用者様と一緒に行いました。

生地にピンクの色を着け、最後に桜の葉で包み、売り物にもできそうな出来栄えの、美味しそうな桜餅を作りました。

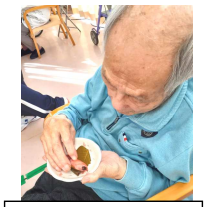
ご利用者様も張切って、お玉で生地をすくいホットプレートに生地を伸ばし、焼かれていました。何人かのご利用者様に作ってもらいましたが自分の番が終わってもまた焼こうとされるご利用者様もいました。出来上がった桜餅も皆さん美味しく召し上がっていました。これからも皆さんが楽しめる行事やレクレーションを一緒にしていきたいと思います。



餡も美味しい～

キレイに出来ました

まるで、和菓子屋さん



もう一個無いかな

四月の誕生者

長妻フミ様　九十二歳
依田次雄様　九十七歳

お誕生日おめでとうございます。

【四月】
四日　ジャスミン理美容サービス
七日・十四日・二十一日・二十八日　カスミ移動販売
三日・十日・十七日・二十四日　日曜礼拝
十七日　大生屋販売
二十日　お楽しみケーキ
二十日　不在者投票
二十九日　防災訓練
※感染対策のため、行事は控えております。

【五月】
二日　ジャスミン理美容サービス
四日・十一日・十八日・二十五日　カスミ移動販売
七日・十四日・二十一日・二十八日　日曜礼拝
十四日　大生屋販売
十八日　お楽しみケーキ
二十五日　防災訓練
※感染対策のため、行事は控えております。

新年度に向けて

理事長兼総合施設長　宇都宮和子

例年よりも二週間も早く、キングスガーデンの桜も咲き、ご利用者さんを楽しませてくれました。コロナウイルスの問題から外に出る機会が制限され、内にこもっていましたが、梅から桜へと、次々とキングスガーデン周辺も花々に囲まれ、ご利用者さんも職員と一緒に散歩。その嬉しそうな写真が特養の廊下に張り出されています。

新年度は徐々に今まで出来なかった行事も取り入れ、ご利用者さんに楽しんで頂けるようにと職員は新たな年度計画に取り入れています。

キングスガーデンの基本方針は①仕える②利用者中心③尊厳④連携⑤専門性の五つが上げられています。どれ一つとっても簡単なようで実行には難しく、ご利用者さんを中心に他職種間と連携を取りながら、主に支えて頂きながら、祈りつつの歩みです。

法人設立四十三年目、四月十日は特養、四月十六日はケアハウスの創立記念日です。ご利用者一人一人が人生の最後、キングスガーデンで生活して良かったと喜んで頂けるようにしたいと祈っています。

その砂漠を主の園のようにする。そこには楽しみと喜び、感謝と歌声がある。（イザヤ五十一：三）

手をとりあって

第三者委員会のご報告

施設長　小川内秀樹

新緑の空気に深呼吸を誘う穏やかな四月の始まり。特養や在宅サービスのお年寄りの絶えない笑顔に、感謝な思いです。

四月一三日に、年一回定期開催の第三者委員会を行いました。三月に予定していましたが、コロナ感染により新年度に入ってからの延期実施となり、今回二年振り。

特養と短期入所について、二〇二二年度、①転倒一四件、誤薬一二件、車椅子やベッドからの転落九件の件数順。②骨折による怪我は、重大と位置づけ、四件。異食一件。③事故の発生しやすい時間帯は、十時～十一時、一五時～一六時、昼食時・夕食時、二十二時～二十三時の順。④場所は、居室内三十四件、リビング内十件、浴室内六件の順。これらの生活や介護上での事故に対して、ご家族様には、電話連絡などで報告と対策についてお話しをさせて頂いてはおりますが、ご利用者本人様の痛みを思う時、お詫びの言葉だけでは済まされない事であると受け止めています。

同じ事を繰り返さない為に、リスクマネジメントの取組として、職員による事故予防意識を持つと同時に、ヒヤリハットを用いたリスクの共有を行う事。また、第三者委員の方からも、ご指摘頂きましたが、職種問わず、職員間のコミュニケーションを充実する事。それらを踏まえ、介護技術や気づきを養って行っていきます。また、苦情については、一件。施設設備の老朽に伴う浴槽の不具合で、入浴に支障が出ていた事について、先日、設備を更新し、現在は、通常稼働しています。

表面化されているものだけではなく、目に見えていないものにも心を向け、ご利用者様に喜んで過ごして頂けるように、改めて努めていきたいと思います。

四月のボランティア

協力牧師の方々（日曜礼拝）※現在コロナノ感染対策の為ボランティア様の受け入れを中止しています。

今年も満開

（穂の汀リビング付近）

桜の季節

虹の架け橋副主任ヘルパー　大嶋雅実

コロナ禍という言葉も、徐々に耳にする機会も意識も薄くなり始め、今までと少し変わった日常が戻りつつある中で、幾度目かの桜の季節が訪れました。

一度目はマスクをして個別の短時間でのお花見。去年は感染対策中によるお花見の断念。そして今年は感染に留意しながらも、ご利用者の笑顔の表情を直に見る事が出来る状態でのお花見が出来る様になりました。この季節の天候は安定し難く、合間を縫ってのお花見となりましたが、二年振りのお花見にお利用者も皆一様に笑顔と歓喜の声が漏れ、和やかな雰囲気に包まれた時間になりました。普段、感情を表に出しにくそうにしておられる方、感情の起伏がある方も、自然と「きれいだなー桜をみられて嬉しいわ。」等々言葉と笑顔に出して喜ばれている姿が、とても印象的でした。

こうした日常をこれからも取り戻していくには時間も我慢も必要ではありますが、少しでも早く多くの日常の機会を得られる事を期待して、来年も桜の季節を迎えられるよう願っております。

桜は満開！

笑顔も満開！

楽しく活力を

特養主任ヘルパー　野田　望

今年に入り、虹の架け橋ユニット内で、昼食前にラジオ体操を行っています。元々は、作業療法士による、利用者への個別ケアの一環として始めたのですが、ご利用者同士で声を掛け合う事で、各自が可能な範囲でのラジオ体操を行っております。一生懸命に行っているご利用者、恥ずかしそうに行っている方、十人十色ではありますが、どことなく楽しそうで活気のある様子が見られます。

ラジオ体操を通して、バイタリティを一人でも多くのご利用者が獲得し、そこから更に楽しく活動的に日々を過ごしていく事が出来るよう、今後も無理の無い範囲で継続して参ります。

ラジオ体操、懐かしいですね♪

【編集後記】新年度も素敵な時間が過ごせますように、よろしくお願い致します。
ほほえみ担当　大嶋・越路

相談員日誌

「介護侍」

宮本真次

とらわれるのはやめましょう。

日々、自分を取り巻く様々な状況や環境に対して、こうであって欲しい…、こうでなければ…、という固着した概念だけにとらわれて一日を終始するのはやめましょう。

そこだけにとらわれてしまっていては、いつになっても現状を打破し越えることは出来ません。

私たちは「介護のプロ」として日々ここに存在しています。私たちの前には私たちを必要としているご利用者がいます。

入職した頃、最初に志した各々の思いを今一度思い出し、日々、様々な雑念にとらわれることに執着せず、「介護のプロ」として自ら自覚を促し、ご利用者にとって無くてはならない存在になることだけを考えていきましょう。

新年度

「さあ行こう！」。

機関紙ほほえみの記事は、筑波キングスガーデン個人情報保護方針に基づき、了解を頂いた上で掲載させて頂いております。